新「道の駅」かんおんじ（仮称）

基本設計概要



令和８年10月

観音寺市
KAN-ONJI CITY

基本設計に関する詳細はこちら

1．新「道の駅」の基本理念・基本目標

新「道の駅」の基本理念（テーマ）及び基本目標は、基本構想及び基本計画において以下のとおり設定しています。

新「道の駅」の基本理念（テーマ）

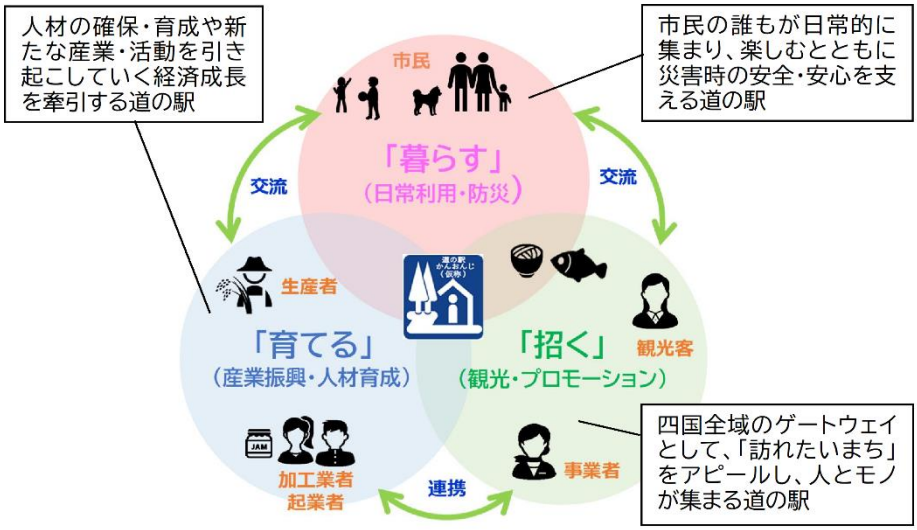
「暮らす」「招く」「育てる」の真ん中で、新たな交流や体験を生み出す「道の駅」

基本目標1
全ての市民が日常的に訪れ、憩い・体験・交流・活動できる拠点づくり

基本目標2
観光客を呼び込み地域外からの消費・投資を促すゲートウェイとなる拠点づくり

基本目標3
「人」を育て、「しごと」をつくり、地域産業の活性化に貢献・チャレンジできる拠点づくり

基本目標4
再生可能エネルギーも取り入れた災害時の安全・安心な防災・減災拠点づくり



新「道の駅」の基本理念（テーマ）

※ゲートウェイ型の「道の駅」
地域外から活力を呼ぶ「道の駅」として、地域を訪れた人が最初に訪れ、地域全体の観光総合案内となる道の駅

2．基本設計方針

全ての市民が日常的に訪れ、憩い・体験・交流・活動できる拠点づくり

多目的屋外広場及び大屋根広場を核として、市民の日常利用を促進するカフェ・オープンラウンジ、軽飲食フードコートを１階に、キッズスペースを２階、遊具を屋外及び大屋根広場に配置することで、様々な人が自然に交流でき、ゆったりと時を過ごすことができる空間を形成します。


▲大型屋外遊具


▲カフェ・オープンラウンジ


▲軽飲食フードコート

観光客を呼び込み地域外からの消費・投資を促すゲートウェイとなる拠点づくり

四国のゲートウェイとして、地域産品や観光資源等の地域情報発信機能を強化するため、情報提供コーナー、地場産センター・地産地消マルシェ、軽飲食フードコート等を配置します。また、施設来訪者を市内の観光資源へ誘導する回遊促進機能としてシェアモビリティステーションや交通ターミナルを整備し、市内全体における交流人口の拡大を図ります。



▲情報提供コーナー



▲地産地消マルシェ



▲シェアモビリティステーション

「人」を育て、「しごと」をつくり、地域産業の活性化に貢献・チャレンジできる拠点づくり

地域の事業者や生産者のチャレンジを支援するため、特産品を活かした新商品の試験販売や新規出店へ繋げることができるチャレンジショップの整備を検討します。また、施設来訪者等の情報を活用した季節の新商品、看板商品やプライベートブランド商品の開発が可能な環境を構築し、市民や事業者が新たな価値を創出できる拠点とします。



▲産業振興施設



▲大屋根広場でのチャレンジショップ

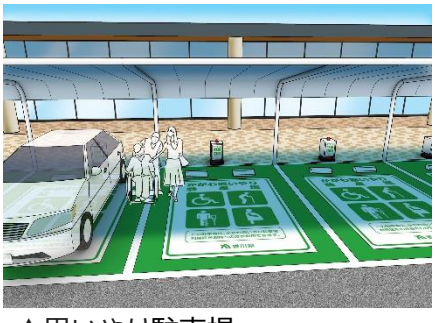


▲特産品

ユニバーサルデザイン及びバリアフリーへの配慮

誰もが利用しやすい施設とするため、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（バリアフリー法）及び「香川県福祉のまちづくり条例」の整備基準を遵守し、多様な利用者に配慮したユニバーサルデザイン及びバリアフリー、「かがわ思いやり駐車場制度」を導入します。

バリアフリートイレの利用集中を解消するため、オストメイトや乳幼児連れに配慮した設備を一般トイレに設置し、機能分散を図ります。あわせて、ユニバーサルデザインに基づき、多言語表記やピクトグラムのサイン、音声案内設備などを整備し、誰もが情報を得やすい環境を構築します。



▲思いやり駐車場



▲バリアフリートイレ



▲サイン

再生可能エネルギーも取り入れた災害時の安全・安心な防災・減災拠点づくり

大規模災害時の緊急避難場所及び広域応援部隊の活動拠点として運用できるよう、施設の耐震化、非常用電源（太陽光等の再生可能エネルギー含む）、耐震性貯水槽、備蓄倉庫、防災トイレ、ヘリポート等を整備します。



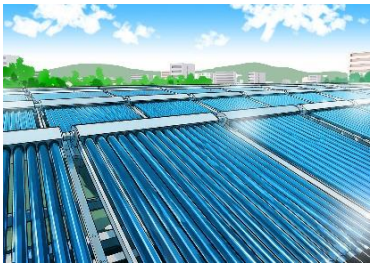
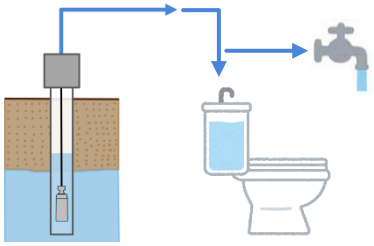
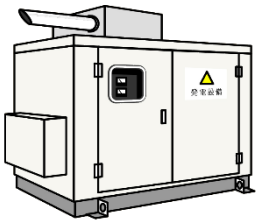
▲耐震性貯水槽



▲コンテナトイレ

あわせて、ユニバーサルデザイン及びバリアフリーの観点に基づき、高齢者・障がい者等の要配慮者も避難及び利用できる防災トイレや車椅子対応シャワー、段差のない動線を確保し、誰もが安全・安心に利用できる広域的な防災拠点とします。

平常時は、太陽光、太陽熱の再生可能エネルギーや地下水を活用することにより環境に配慮します。災害時のライフラインのバックアップ対策としては、これらの再生可能エネルギー等に加え自家発電設備を活用して、地域を支える防災拠点とします。

太陽光発電 	太陽熱温水器（コインシャワー） 
地下水（給水） 	自家発電設備 

耐震安全性の分類は、地域防災計画において緊急避難場所として位置づけられた広域応援部隊の活動拠点とするため、大規模な地震が発生した際にも、利用者の安全を守り、施設としての機能をできる限り維持できる建物とします。

建築物の用途及び規模等を踏まえ、構造種別の比較検討（右表）を行い、総合的に評価した結果、施設の構造は鉄骨造とします。

項目	木造（W造）	鉄骨造（S造）	鉄筋コンクリート造（RC造）
構造			
機能性（空間の確保及び間取りの自由度等）	△	◎	△
維持管理（耐久性）	△	○	◎
耐火性	△	◎	◎
耐震性	○	◎	◎
施工期間	◎	○	△
環境影響（景観・木材利用等）	○	◎	○
経済性	◎	◎	○
評価	本道の駅施設の構造では、維持管理（耐久性）及び施工期間において他の案が優れるが、全ての項目において低評価項目（△）がなく、機能性（空間の確保及び間取りの自由度等）、耐火性及び経済性等に優れる鉄骨造が望ましい。		

3．概算事業費（イニシャルコスト）

測量･用地買収･造成工事　（単位:千円）

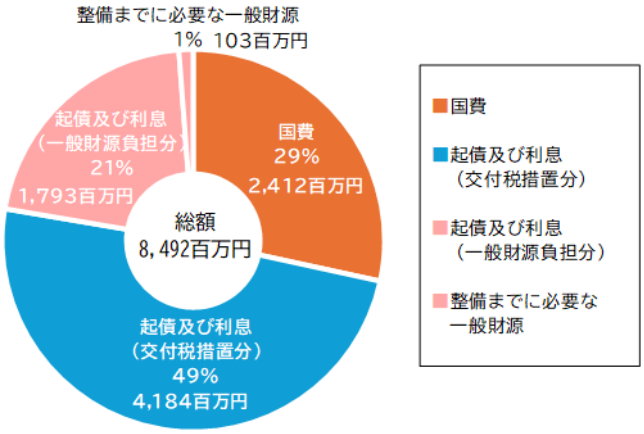
項目	金額
測量･調査費･不動産鑑定等	98,000
土地造成関係	209,000
用地取得･補償	1,203,000
小　計(A)	1,510,000

道路整備工事　（単位:千円）

項目	金額
市道新設工事	118,000
県道交差点改良工事	0
国道側進入退出路整備工事	872,000
小　計(B)	990,000

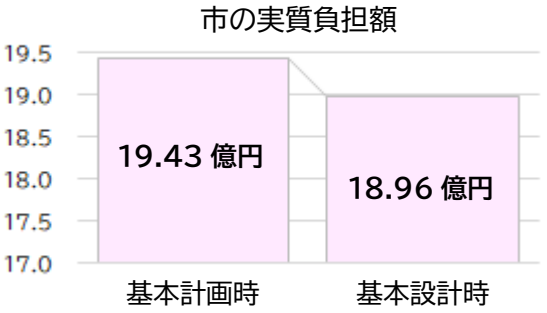
道の駅整備工事　（単位:千円）

項目	金額
基本構想･基本計画	36,000
基本･実施設計	187,000
工事監理	67,000
建築工事	2,812,000
建築付帯工事(防災含む)	1,041,000
構内整備工事	827,000
看板等設置工事	40,000
什器･備品等	70,000
小計(C)	5,080,000
合　計(A)+(B)+(C)	7,580,000



整備に必要な概算事業費総額（利息を含む）

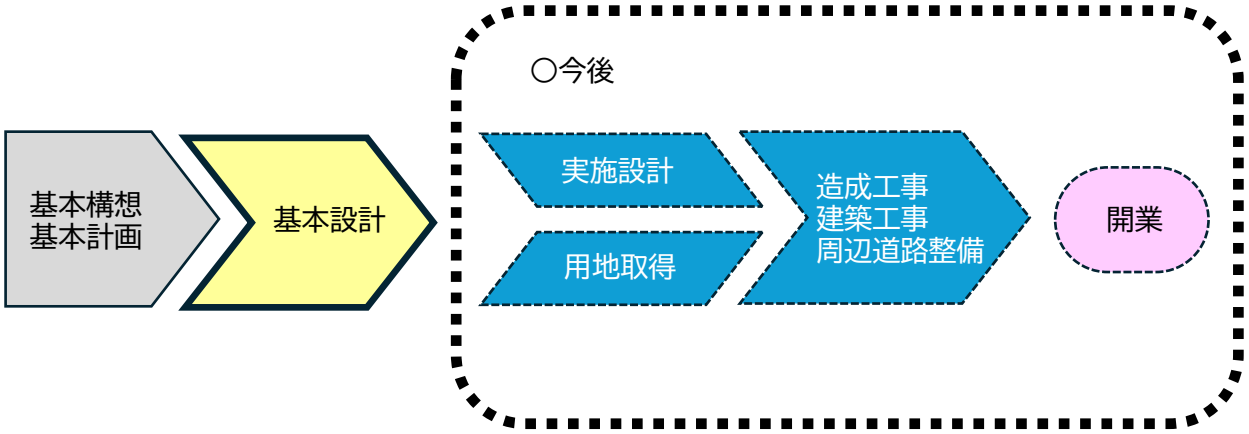
※起債及び利息(交付税措置分)とは、元金償還額及び利息の70%に対し国から交付税が措置されることをさします。



金利の上昇などの影響により総事業費は基本計画策定時の想定から増加しましたが、国からの交付金や補助金が増加したことなどにより、市の実質負担額は**基本計画策定時の想定と比べて約4，700万円減少し、約18億9，600万円**となる見込みです。

4．今後のスケジュール

開業に向けて以下の段階により事業を進めていきます。



5．配置計画



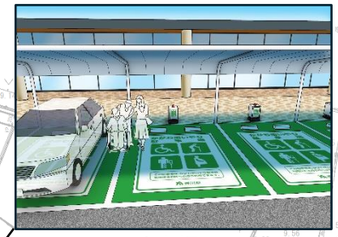




▲多目的広場



▲EV 充電用駐車枠



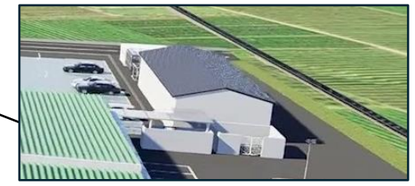
▲思いやり駐車場



▲大屋根広場



▲交通ターミナル

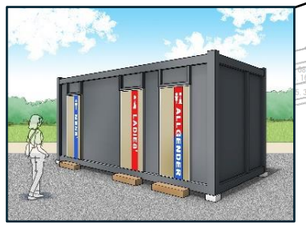


▲防災倉庫



▲シェアモビリティステーション

▲シンボルゾーン（スポット）



▲コンテナトイレ



▲耐震性貯水槽



▲高松方面から施設へ進入するための立体交差



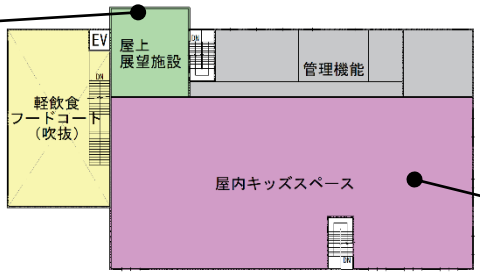
▲大型屋外遊具

※本整備イメージは基本設計時の案をイメージ図化したもののため、今後、検討内容を踏まえ変更します。

6．平面計画

▼屋上展望施設





▼屋内キッズスペース



2階平面プラン

▼カフェ・オープンラウンジ

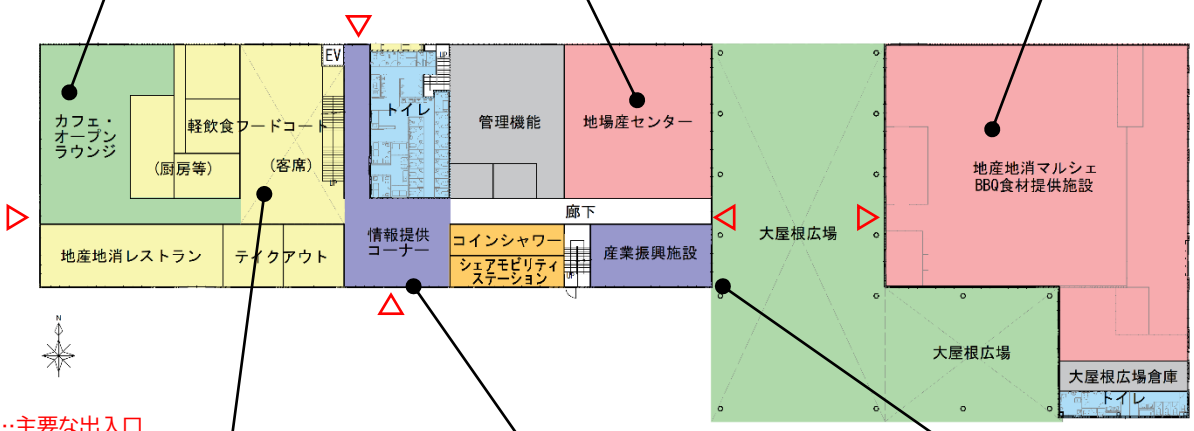


▼地場産センター



▼地産地消マルシェ

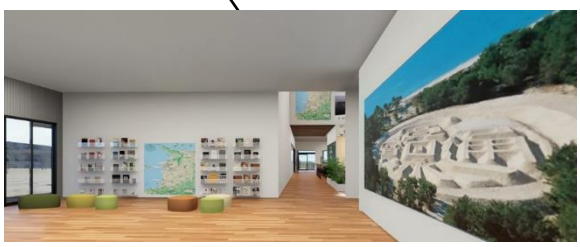




△…主要な出入口



▲軽飲食フードコート



▲情報提供コーナー



▲産業振興施設

※本整備イメージは基本設計時の案をイメージ図化したもののため
今後、検討内容を踏まえ変更します。

1階平面プラン

観音寺市政策部プロジェクト推進課
〒768-8601　香川県観音寺市坂本町一丁目1番1号
TEL:0875-23-7577　FAX:0875-23-3920